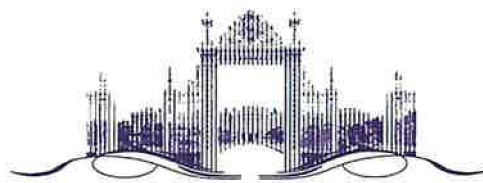




Rotary International
 ROTARY SHARES
 ロータリーは分かちあいの心
 2007～2008 年度
 国際ロータリーテーマ:ウィルフリッド J.ウィルキンソン会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.977 / 2007.11.30

例会 / 毎週金曜日12:30
 例会場 / ANAインターコンチネンタルホテル東京
 Tel 03-3505-1111
 事務局 / 〒107-0052東京都港区赤坂2-19-8
 赤坂2丁目アネックス3F
 Tel 03-3505-5976
 Fax 03-3505-6004
 akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp
 http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「広げよう友の輪、分かちあおう喜びを！」

2007～2008年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ / 小原健会長

●本日の例会 / 2007年11月30日 第1000回例会

『DSG (地区補助金) とMG (マッチンググラント) について』

地区R財団補助金委員会 委員
 富澤 為一 氏
 (東京品川 RC)

— ●前回報告 / 2007年11月16日 第999回例会 —

出席報告:

会員54名 / 出席30名・欠席24名 (出席規定免除者5名)
 ゲスト / 平田和夫 (新会員候補者)、長谷川弘志 (新会員候補者) 計2名 (順不同・敬称略)
 ビジター / 澤山精一郎 (長崎 RC) 計1名 (敬称略)



1000回目の例会を迎えて

1992～1993年度会長 柴本 芳郎

1000回目の例会おめでとうございます。紆余曲折はあったけれど、よくぞここまで当クラブが成長をとげてきたことに感慨深いものがあります。そして、私もサラリーマンメンバーでありながら、この11月で26年半もロータリアンをよくぞ続けてこれたものと感心している次第です。その理由を考えてみると、



- (1) ロータリークラブの綱領、法則、理想 etc は抜きにして、色々な業界の人々が損得からは全く離れてつき合いを深めてゆく団体は此の世の中、そうザラには無い。人生の味付けにとっても大切な集まりである。
 - (2) 世の為、人の為と大そうな理想は別にして、こうして元気に無事生きていられることに対し、少しでも世の為にお返しをしたい、それを推進してくれる団体にロータリークラブがある。
 - (3) 地球規模で同じ志をもって動く団体はそうザラにない。人間同士イガミ合いの多い此の世の中、そして地球、国際的視野で平和的なつき合いの出来る団体、ロータリークラブを大切にしたい。
- 何れにせよ「継続は力なり」と今後も実行してゆこうではありませんか。

『1000回の例会』

1994～1995年度会長 / 創立会員 馬場 一廣

1000回の例会と聞いて感慨深いものがある。

I クラブ創立のころの例会は当時の週報によると次のとおりである。

1. 1986年9月19日 準備例会 (第1回)

司会 田辺賢三氏より「今後金曜日のこの時間(12:30～1:30PM)に永久に例会は行われることとなります」との開会の言葉の後

- ① ロータリーソング「手に手つないで」の練習
- ② 特別代表黒川光朝氏 (南 RC 虎屋社長) の挨拶
- ③ 会員自己紹介

が行われた。まだ仮クラブであるので、点鐘はなかったが10月3日の創立総会以後はRIより認証を受けて正式なロータリークラブとなる。

出席状況 会員20名中欠席3名
 (1986年9月26日付週報 No.2引用)

2. 1986年9月26日 準備例会 (第2回)

- ① ロータリーソング「奉仕の理想」
- ② 会員自己紹介
- ③ 理事・役員及び各委員会委員長内定者発表
- ④ 幹事報告

出席状況 会員25名中欠席5名
 (1986年10月3日付週報引用)

3. 1986年10月3日 創立総会 (第3回)

当日は地区ガバナー市村茂人氏始め多くのゲストとビジターをお迎えし無事盛会のうちに終了。いよいよ新クラブはスタートを切った。

出席状況 会員25名中欠席4名
 (1986年10月17日付週報 No.1引用)

4. 1986年10月17日 例会 (第4回)

司会 田辺賢三会長
 卓話 「東京南ロータリークラブとともに」
 (南 RC 藤倉化成(株)取締役相談役)

来客紹介 (国内) 中野博義君
 (海外) 斉藤茂之君

出席状況 会員25名中欠席3名
 (1986年10月24日付週報 No.2引用)

5. 1986年10月24日 例会 (第5回)

司会 田辺賢三会長
 ロータリーソング「日も月も星」
 ソングリーダー 松尾治樹 (東京南 RC)
 田辺会長挨拶
 村川副会長挨拶

「例会運営について」 親睦活動委員長 中野博義
出席状況 会員25名中欠席7名
(1986年10月31日付週報)

と続く。

ここで田辺初代会長の就任の挨拶を紹介すると以下のとおりである。

「去る10月3日開催の創立総会によりRI第2750地区第50番目のロータリークラブとして新たに誕生いたしました東京新南ロータリークラブの初代会長を務めさせて頂きますことはまことに光栄に存ずる次第であります・・・略・・・私たち創立会員と今後続々と入会される会員の方々の力で大きく発展していく無限の可能性-希望に満ちております・・・」

Ⅱ このように当クラブの例会開催の草創期は希望に満ちていたわけで、それから創出された当クラブの伝統こそが1000回の例会を達成させたものだろうと思う。田辺初代会長の言われた「今後金曜日のこの時間(12:30~1:30PM)に永久に例会が行われること」を切に祈るものである。

「一番大切なこと」を守って1,000回

1995~1996年度会長 山川 政樹

私たちのロータリークラブは昨年創立20周年を迎え、また、来たる2007年11月30日には1,000回目の例会を迎える。その間に、女性会員の入会承認やクラブ名称の変更という大きな変革があった。私は、メイクアップを行ってのことであるが、出席簿の上では無欠席、換言すれば、私にとって11月30日の例会は1,000回目の例会出席となる。

なぜ、私のようななどちらかと言えなまけ者に属する人間が出席簿上1,000回の皆勤を何故守っているのかを考えてみた。ロータリークラブに入会させて頂いた頃は、年齢が52歳で体力も健全だったからだろうかとも考えてみた。そうでもないような気がする。

21年もの前のことを回想すると、我々を指導してくれた先輩は、口を開けば、我々新人にロータリーとは奉仕と親睦、そしてその基本が「例会への出席」であると説かれた。この教育は私にとっては徹底して、ちょうど「耳にたこ」が出来る位の教育であったことを記憶している。ロータリアンにとって「一番大切なことは出席です。出席です。出席です・・・」の教育が1,000回もの例会へ皆出席の原因となったのだなあーと最近考えるようになった。

20年もの昔は、まだロータリーには一種の社会的ステータスがあり、ロータリアンになるためには、この一番大切なことを実行するのが重要であった。ロータリーへの入会者が減少している昨今、余り義務を課すと入会してもらえないのではとの危惧があるが、守ってもらわないといけないうこと、やってもらいたいこと、等をはっきり仕分けし、入会候補の時からくり返し指導することが必要と思う。これがクラブの持続と繁栄の第一歩と考えている。

例会1,000回を迎えた我がロータリークラブへ乾杯!!

「ロータリーへの思い」

1997~1998年度会長 / 創立会員 武下 朗

創立会員といっても、当初は会員の顔も名前もよくわからなくて、全く異分子的存在、何をしたらいいのかわからず困った。委員長や他の役員に指示されてから行動するレベルでした。ロータリーには習うより慣れるといった風習があって、まさにそれでした。まごまごしているうちに創立総会、伝達式と事が進んだのは、南ロータリークラブから参加された、田辺さんを筆頭に7名の方々がフル回転、1人3役の大活躍があったのです。創立当初は炉辺会議の形で田辺さん、田島さんのレクチャーをたびたび受けました。その熱心な先達の態度に何故こんなに一生懸命になれるのか不思議な尊厳を感じました。でもそうした場から

逃げようと思えばいつでも逃げることはでき、強制されたことは一度もありませんでした。それにしても今日まで何故続いたか多分例会、火曜会でお会いしておしゃべりする楽しさだったと思います。熱心な人、いい人、無口な人、楽しい人、シャイな人、ぐちる人回を重ねるごとに親しくなっていました。創立以来100名程の方々が退会されています。勿論お亡くなりになった方も含め、その皆さんとも親しくさせていただいたいくつかの思い出も私の心に堆積しています。心が通じ合い、ご一緒に行動もし、あのままずっと続いていたらなああと、つくづく思うことばかりです。退会されると捨てられたような気分になるのは何故だかわかりませんが私にはあります。退会にはそれぞれの理由があります。99%の方々の原因がロータリーではない、その生きざまに変化が生じた場合がほとんどだと思います。ロータリー哲学に「継続は力なり」とあります。入会当時と同じような状態を続けられるかどうかだと思います。

次にクラブが元気でいるには特に中心的会員がエンジョイロータリーを推進実践することです。今のロータリアンはロータリー臭を好みません。でも哲学、細則は知っておくべきです。そのためには役員、理事、委員長、副委員長になれば必ず勉強します。そして1年ごとに交代し、繰返すことで識者は増えていきます。もう一つは会社の仕事に活気があればロータリーも活気があります。一つのみちだと思えます。

これからのロータリーを考えると、幸いにも地球上の環境問題が最重要課題になりつつあります。このまま突っ走ることは許されません。

コップの中の嵐です。ロータリー哲学は運用のありかたで十分この命題に答えることができると思います。

「ロータリーのより良き理解のために」

1999~2000年度会長 渡部 一元

我がクラブの例会が1,000回を迎えようとしている。「千」は漢字でも、英語(thousand)でも、共に、きわめて多くの数、或いは無数をも意味している。誠におめでたい限りである。

毎週、毎週、1,000回の積み重ねには強い求心力がある。ロータリーだからこそ出来たのである。この際、ロータリーとは何だろう、ロータリーを身近なものとして、もう少し掘り下げて考えてみたい。それには少し工夫が要る。その幾つかを述べてみよう。

どの団体、組織でもそれぞれ特有の原理、原則、つまり「原点」がある。ロータリーも例外ではない。そして通常、現状の組織、活動のあり方を確認する場合、「原点に帰れ」と掛け声をかける。原点に戻って考えてみようと言うことである。ロータリーの場合、これが難しい。

ロータリーは百年以上前、遠い異国のアメリカで生まれた。歴史、文化、伝統、宗教、すべてが異なる中でロータリーの原点は形成された。異文化を理解するのは容易ではない。単に「原点に帰れ」と言われても困る。ではどうしたらよいか。「原点に帰る」(Back to the Basic) のでなく「原点に向う」(Forward to the Basic) のである。これなら出来る。ロータリーの原点の理解実践に向けて、日本の土壌の中で、未来志向で取り組むことである。例会1,000回を記念して、皆で、ロータリーの原点に向いましょう。

もう一つ。ロータリーの原点の一つである奉仕活動をどう理解するか。欧米文化、特にキリスト教の思想の背景があることは想像できる。しかしもう少し分かりやすく、我々の生活体験を通じて「奉仕」を理解できないか。我々の年中行事の一つを取り上げて考えてみたい。それは節分である。日本では毎年2月、「鬼は外、福は内」と願う。しかし本当にこれでよいのか。自分さえ良ければ、他はどうなってもいいのか。

もちろん「福は内」を通じて得られる、家内安全、商売繁盛はすべての基礎である。しかしそれと同時に他の人も幸せになっ